

# 平成25年度事業計画

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

学校法人 杏林学園

## 目 次

はじめに	1
1 <b>グローバル事業の推進</b>	1
・ 学生の外国語力強化のための環境整備	
・ 学生のコミュニケーション力養成の支援	
・ 海外協定校、留学先の拡大・開拓	
・ 大学教職員のグローバル化	
・ 特色教育	
2 <b>教育の質向上に向けた取り組み</b>	2
[医学部]	
・ 英語教育の充実化	
・ 臨床実習のあり方に関する検討	
・ 新カリキュラムの円滑な導入（少人数教育）	
[保健学部]	
・ 視野を広げる教育の推進	
・ 教員採用試験・公務員試験を視野に入れた教育	
・ 実習施設の充実	
・ 教育環境の充実	
・ 教育情報共有の円滑化を推進	
[総合政策学部]	
・ 新型入試の実施	
・ 学科再編と新カリキュラムの具体的検討	
・ PBL 型教育の積極的導入	
・ 教育の国際化	
・ 授業評価アンケートの活用	
・ 個別指導の徹底	
・ 保護者向け就活説明会の実施	
[外国語学部]	
・ 教育システム（カリキュラム）	
・ 初年次教育、入学前教育	
・ 新設学科の充実	
・ FD の取組	
2-2 <b>学生生活支援</b>	4
・ 中退予防施策	
・ 課外活動参加の促進	
・ 関東地区学生生活連絡協議会会長校としての事業	
・ 学生支援活動の可視化の促進	
・ 学生ステーション組織の整備	

- ・ピアサポートの推進
- ・公認団体横断的な連携関係の構築
- ・教職員・学生協働による学生支援推進体制の運営

## 2-3 心身の健康支援 . . . . . 5

### [三鷹キャンパス]

- ・健康診断
- ・抗体検査及びワクチン接種
- ・メンタルヘルス
- ・業務の拡大

### [八王子キャンパス]

- ・健康診断
- ・抗体検査及びワクチン接種
- ・外傷・疾病への対応
- ・啓発活動
- ・メンタルヘルス

## 2-4 地域との連携 . . . . . 6

- ・学内の教育・研究リソースの外部利用促進
- ・キャンパス周辺地域との連携強化
- ・協定先との連携強化
- ・学内リソースの統合による外部資金獲得の検討
- ・地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）

## 3 研究体制の強化 . . . . . 7

### [医学研究科]

- ・研究活動の活性化
- ・研究環境整備と研究支援
- ・定員数適正化の検討

### [保健学研究科]

- ・院生数の確保
- ・院生の国際学会での発表、英文学術誌投稿の奨励
- ・外部資金獲得への挑戦

### [国際協力研究科]

- ・定員数見直しと専攻再編の検討
- ・教員・大学院生の研究の質的向上
- ・社会的認知度の向上と研究成果の還元

## 4 優秀な学生確保 . . . . . 8

- ・学生募集プロジェクトの計画と実践により、今年度を上回る受験生を確保する
- ・大学案内における学部紹介の内容を検証し、受験生の満足度を高める施策を実行する
- ・オープンキャンパス及び進学相談会参加者数の増加を目指す
- ・入学試験の円滑な運営

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生確保に向けての取り組み</li> <li>・受験生の満足度向上</li> </ul>	
5	<b>キャリア支援の向上</b> . . . . .	9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部との連携強化</li> <li>・新たな求人の開拓</li> <li>・地域企業との産学連携強化</li> <li>・就職対策の保護者への周知</li> <li>・同窓会（卒業生）との連携による就職対策の実施</li> <li>・大学院修了者に対する就職支援方法の検討</li> </ul>	
6	<b>情報基盤の整備</b> . . . . .	10
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期実行計画の策定</li> <li>・医学部 PC 教室の環境リプレイス</li> <li>・基幹ネットワーク（SINET）のバージョンアップ</li> <li>・全学的な教学マネジメントの取り組み</li> <li>・就職支援システム及び教職履修カルテシステムの導入</li> <li>・教職員のセキュリティ体制の構築と学生向けモバイルデバイスのセキュリティ対策検討</li> </ul>	
7	<b>キャンパス移転の計画整備推進</b> . . . . .	11
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新キャンパスの土地の取得及び建築計画の推進</li> <li>・学生生活将来計画の検討・準備</li> <li>・新キャンパスへの移転・大学改革の周知</li> <li>・蔵書の移転準備</li> <li>・新図書館の設備計画</li> </ul>	
8	<b>医療体制</b> . . . . .	12
	[医学部付属病院]	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新築・整備された各部署の機能向上、体制の再編</li> <li>・病院管理・経営からみた新病棟建設後の評価</li> <li>・医療安全の推進</li> <li>・感染防止策の周知、徹底</li> <li>・地域医療連携の強化</li> <li>・効率的な病床利用</li> <li>・職員教育の充実</li> <li>・看護師の質の向上</li> <li>・患者サービスの活動強化</li> <li>・手術部の充実</li> <li>・臨床試験の推進</li> <li>・がんセンターの整備</li> <li>・病院機能評価受審</li> </ul>	
9	<b>看護専門学校教育</b> . . . . .	13

- ・教育の充実

10 **学園運営体制の整備** . . . . . 13

- ・「第3次中期計画」の推進
- ・財政基盤の健全化を図る
- ・広報活動・情報公開の一層の推進
- ・大学ホームページの情報発信を強化し、アクセス増を図る
- ・「人事制度」の構築
- ・「自己点検・評価」の体制構築、点検実施
- ・学園創立50周年記念事業準備

**【用語説明】** . . . . . 15

# 平成 25 年度事業計画

学校法人 杏林学園

## はじめに

昨年8月に中央教育審議会から「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」が答申されました。それによると、グローバル化、情報化の進展、少子高齢化など社会の急激な変化の時代背景のもとで、社会が大学に求めているのは、予測困難な社会を生き抜くための力を身に付けた人材の育成であり、それを実現するために大学教育改革の必要性を答申しています。本学においても、特に文系の総合政策学部、外国語学部はまさにこの学士課程教育の質的転換が喫緊の課題であり、この認識のもと、今年度に第3次杏林大学中期計画をスタートさせ、教育改革を推進してまいります。

このことから学園の今年度の事業計画には、1. グローバル事業の推進、2. 教育の質向上に向けた取り組み、3. 研究体制の強化、4. 優秀な学生確保、5. キャリア支援の向上、6. 情報基盤の整備、7. キャンパス移転の計画整備推進を柱として、これに、8. 医学部附属病院の医療体制の強化、9. 看護専門学校の教育の充実、10. 学園の運営体制の整備を加えた10項目を構成として策定しました。なかでも、キャンパスの三鷹地区への移転については、平成28年に迎える創立50周年記念事業の中核事業として取り組むもので、総合大学として、次の50年、100年の発展に向けて新たな歴史を拓いて行く本学の一大事業であり、その準備の幕開けとなります。

一方、学園の経営状態は全学挙げて取組んだ収支改善が進んだことで、帰属収支は黒字の状態を維持しておりますが、八王子キャンパス移転計画・病棟の再編整備に伴う改修費・設備費の他、平成26年度には、消費税の増税や医療収入に大きな影響のある診療報酬改定が予定されるなど、決して楽観できる状況にはありません。今後、数年間にわたって見込まれる多額の資金需要から、将来に備え、引き続き財政基盤の健全化に取り組んでまいります。

平成25年度事業計画は、これらの施策を基に展開してまいります。

## 1 グローバル事業の推進

### 学生の外国語力強化のための環境整備

英語及び中国語の語学力を強化するため、語学サロン、同時通訳教室、CALL 教室[注 1]等の運営支援をする他、e-ラーニングの普及拡大とアドバイザーシステムの確立を図る。又、TOEIC や中国語検定等の語学検定試験の受験を推奨し支援する。

### 学生のコミュニケーション力養成の支援

双方向型の学習、アクティブ・ラーニングを実施・展開するための教室の運営、複数学部の共同による総合演習やディベート・シミュレーションの実施、それらの学習成果を評価する方法(ルーブリック[注 2]等)の取り組みを支援する。

### 海外協定校、留学先の拡大・開拓

中国語圏の協定校との関係強化を図るとともに、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア等の英語圏、タイ、マレーシア、ベトナム、ミャンマー等の ASEAN 諸国を中心に、海外協定校の開拓を行い、海

外交流拠点を拡充するとともに、学生の海外留学・研修先の確保・拡大を図る。

### 大学教職員のグローバル化

学部教育における「グローバル人材育成事業」を推進するためには、大学がグローバル化し、又、教職員自身がグローバル人材とならなければならない。そのため教職員の語学学習・研修を奨励する他、海外研修の機会を設け支援していく。

### 特色教育

とりわけ外国語学部においては、「グローバル人材育成推進事業」の主たる取り組み学部として、その構想の実施を通じて「スマートでタフな日中英トライリンガル人材」を育成する。そのために「グローバル人材育成プログラム」を導入する。又、学部・学科の教育目標を達成するために、従来の教育内容及びアクティブラーニングなどの教育方法を改善し、更なる質の向上を目指す。

## 2 教育の質向上に向けた取り組み

### [医学部]

#### 英語教育の充実化

M1からM4において4年間行われている英語教育について、長期的展望に立ち、より効果的な英語教育を目指すべく、クラス編成の変更、評価方法、講義方法・内容等を含め、具体的な検討を開始する。

#### 臨床実習のあり方に関する検討

M5(BSL)及びM6(臨床クラークシップ[注3])において行われている臨床実習について、実施時期、実施期間、実施内容等を含め、医学教育の国際標準化も視野に入れ、質と量の充実を図るべく引き続き検討を行う。

#### 新カリキュラムの円滑な導入(少人数教育)

平成25年度から新たな実施方法が決定しているM3の「チュートリアル」(少人数グループ編成による問題解決型学習)、M4の「臨床診断学(実習)」(少人数グループ編成による診療技能習得学習)について、その円滑な導入を図る。

### [保健学部]

#### 視野を広げる教育の推進

総合大学の利点を生かし、教養教育の充実を図るため、人文・社会学系統の授業に一般教養を高める項目を取り入れ、理系学生の視野を広げる教育を推進する。

#### 教員採用試験・公務員試験を視野に入れた教育

教員採用試験と公務員試験は、一般教養も含めた広い範囲の知識が問われるため、1年次からの教養教育に重点を置き、学生のニーズに応える。

## 実習施設の充実

全学科において学外実習が組まれているが、さまざまな学生のニーズに対応するためには多くの外部実習施設を提供できることが必要とされるため、新規の開拓と各施設との良好な関係の構築により学習効果の向上を図る。

## 教育環境の充実

学生の増加に伴い、講義室、演習室、実習室の環境改善・効率的稼働の工夫など充実を図る。

## 教育情報共有の円滑化を推進

八王子キャンパスと三鷹キャンパスをつなぐTV会議システムを活用し、学部、大学院の教育情報共有の更なる円滑化を進める。

## [総合政策学部]

### 新型入試の実施

学際的教育[注 4]を促進するため、社会科学の複数分野に関心を抱く受験生を積極的に入学させる入試方法を検討・実施する。

### 学科再編と新カリキュラムの具体的検討

キャンパス移転に向け、学科再編及び新カリキュラムの具体的検討を進めるとともに、移転にともなう問題点の洗い出しと対応策の検討を重ねる。

### PBL 型教育の積極的導入

社会の要請に応える基礎教養教育の充実とプレゼミナールにおける大学生基礎力や就業力の向上のため、PBL 型教育[注 5]を積極的に導入する。

### 教育の国際化

eラーニングの受講や TOEIC の受験を奨励して学生の語学力を強化するとともに、プレゼミナールや講義科目に英語での授業を導入する。又、海外研修や国外におけるゼミ合宿への参加がしやすいような環境整備を推進し、教育の国際化を図る。

### 授業評価アンケートの活用

学生の満足度を向上させるために、教育方法の改善を図るなど、FD によって活性化するとともに、全学部的に行っている授業評価アンケートの結果を積極的に改善に活用する。

### 個別指導の徹底

プレゼミナール担当教員及び基礎演習担当教員による面談・相談体制を維持・強化し、学生一人一人の出欠及び修学状況を把握しつつ個別指導を徹底することで、低学年次学生の本学部への安定的定着を図るとともに、不登校や学業不振の早期改善及び中退者削減に努める。

### 保護者向け就活説明会の実施

学部の年間予定と有機的に連携させるなど、保護者向けの就活説明会の効果的な実施時期・方法を検討・実施する。



## [外国語学部]

### 教育システム(カリキュラム)

平成 27 年度からのカリキュラム一部改正に向けての作業を全学科で開始する。

### 初年次教育、入学前教育

新入生全員を対象としたフレッシュャーズ・キャンプ[注 6]を実施し、1 年次を通して基礎的技能の向上やグループワークを課す少人数クラスでの「基礎演習」などにより初年次教育を充実させる。又、入学予定者に対しては入学前セミナーを行い、学士課程教育へのスムーズな導入を図る。

### 新設学科の充実

観光交流文化学科は完成年度を迎え、中国語学科は新設 3 年目を迎える。いずれの学科も計画どおりに年を追って充実が図られているが、その点検・評価を実施し、一層の充実を図る。

### FD の取組

「グローバル人材育成推進事業」の採択を受けて、教育の質の向上に資する研究会・研修会やシンポジウムなどを実施し、FD 活動の一助とする。又、従来の学部内研究会「アカデミア」も引き続き活性化していく。

## 2-2 学生生活支援

### 中退予防施策

1 年次は「基礎演習」担当教員、3・4 年次は「ゼミナール」担当教員によるクラス担任制が確立し、主な中退理由である学習意欲の喪失、人間関係に対する配慮がなされているが、進級条件が課された 2 年次の中退を未然に予防するための方策を検討し、中退予防体制の充実を図る。

### 課外活動参加の促進

学生が社会性や人間力を培い、社会人となるに相応しい能力を養うために、地域との連携を図るボランティア活動、クラブ活動、ピア・サポート[注 7]など、学内外の課外活動に主体的、積極的に参加する風土を育み、機会を提供する。

### 関東地区学生生活連絡協議会会長校としての事業

平成 25 年度は関東地区学生生活連絡協議会の会長校となることが決まっているため、学生支援事業に関わる大学間ネットワークを活用し、本学における学生支援事業の更なる質的向上を図る。

### 学生支援活動の可視化の促進

学生支援体制の可視化を促進するため、学生生活ハンドブックの内容及び体裁を刷新し、学生生活への利便性を高めるとともに、積極的な学生支援事業への参加を促す。又、学生の公認課外活動、あるいは学生ステーションなど学生自主活動の認知度を向上させるための紹介冊子や動画を製作し、配布あるいはホームページなどを通じて、参加学生の裾野を広げる。

### 学生ステーション組織の整備

学生ステーションに登録する学生のニーズに応じた課外活動支援を実施するとともに、学生の自主性、企画能力、自己管理能力を育成するため、学生の自律的な組織作りを支援し、その機能化を促進する。

### ピアサポートの推進

大学生活や行事等において、学生が学生を支援し、ともに人間的な成長を遂げることを目的とし、特に新入生が入学する春学期はもとより、年間を通じて継続的なピアサポート事業を実施する。

ピア・サポートシステム拡充の一環として、上級生による新入生全員を対象としたフレッシュャーズ・キャンプを実施し、入学後の大学生活へのスムーズな移行を支援する。

### 公認団体横断的な連携関係の構築

課外活動の中核をなす公認団体等の横断的な連携関係を構築するため、リーダースキャンプを実施し、情報共有、危機管理意識の醸成、相互協力体制の構築を図る。公認団体の自主的運営能力を高め、学生の課外活動参加率の更なる向上を目指す。

### 教職員・学生協働による学生支援推進体制の運営

学生の人間的成長を図る学生支援事業に学生代表を加え、教職員・学生の協働による学生支援活動のあり方を再検討する他、学生生活環境の改善に向けての取り組みを実施する。

## 2-3 心身の健康支援

### [三鷹キャンパス]

#### 健康診断

学生・教職員を対象とした法令に基づく定期健康診断を実施する。その上で、年間計画の企画立案をし、関係各所と連絡・調整の上、円滑な実施を目指す。学生においては学校保健安全法に則した健診項目の見直しを図る。又、教職員においては定期健康診断の受診率 100%の達成と健康診断実施後の健康指導を継続する。

#### 抗体検査及びワクチン接種

付属病院で勤務する教職員へ関係部署と協力し、水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎の抗体陰性者に対しワクチン接種を勧奨する。又、HB 抗体陰性者には希望者に HB ワクチン接種を実施する。インフルエンザワクチン接種は学生及び全教職員の希望者に対し実施する。

#### メンタルヘルス

平成 24 年度に引続き、人事課・安全衛生委員会・八王子保健センターと連携し教職員のメンタルヘルス向上を目的とした講習会を実施する。又、院内カウンセリングルームと平成 24 年度から導入したメンタルヘルス外部機関の活用を推進し、休職者の減少を目指す。

#### 業務の拡大

保健室の機能を有した部屋の設立を目指し、同時に専任職員を配置することで、業務の拡大及び更なる円滑化を目指す。

## [八王子キャンパス]

### 健康診断

学生・教職員を対象とした法令に基づく定期健康診断を実施する。学生には健診等の証明書の発行を行う。更に学生・教職員の健康に対する取り組みを援助するために、定期健康診断の受診率の向上を図ると共に健康診断実施後の健康指導を充実させる。

### 抗体検査及びワクチン接種

病院等で実習を行う医療系学科の学生に対する水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎及びHBの抗体検査を実施する。水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎の抗体陰性者にはワクチン接種を勧奨し、HB抗体陰性者には希望者にHBワクチン接種を実施する。インフルエンザワクチン接種を医療系の学科及び大学院の学生及び教職員の希望者に実施する。

### 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷・疾病に対する応急処置を実施する。この際には医学部附属病院と積極的に連携し、必要に応じて他病院紹介、病院搬送、救急車要請等を行う。更に学生・教職員の疾病や外傷に関する相談に随時対応する。又キャンパス内のAEDの保守点検を行う。

### 啓発活動

喫煙、飲酒、薬物乱用、HIV感染、食中毒等に関する健康イベント、キャンペーン、講演会等を実施する。又ポスターやホームページなどに加え、ユニバーサルパスポート[注 8]、CRVシステム[注 9]などを利用してインフルエンザ、感染性胃腸炎、結核などの感染症や各種疾病に対する予防と知識の普及に努め、患者発生に備えた危機管理体制の構築を進める。夏季には学生支援センターと共同してWBGT[注 10]を連日測定して熱中症の予防を図る。

### メンタルヘルス

学生のメンタルヘルスの対応部署である学生相談室の存在を学生・教職員に周知し、同室と連携した取り組みにより、学生のメンタルヘルスの向上を図る。又、教職員のメンタルヘルスに関しては、三鷹保健センターの協力のもとに教職員に対するメンタルヘルスの講演・講習を実施する。

## 2-4 地域との連携

### 学内の教育・研究リソースの外部利用促進

八王子各学部の研究室・ゼミ・教室などにおける学外地域を対象とした「地域交流活動支援事業」の拡大実施を通じ、本学全体の地域交流活動を活性化する。

又、年度内の発行を予定している「地域交流活動報告書」の発刊に向け、学内関係者が実施した各種地域交流活動についての情報を収集する。

### キャンパス周辺地域との連携強化

八王子市諸行事への支援、宮下町内会・加住町内会との連携、大学コンソーシアム八王子への参画などを推進する。

過去 5 回実施してきた「八王子まちづくりフォーラム」については、キャンパスの移転も想定にいれつつ、代替イベント実施も含めた中期的な視点で実施方法・内容の見直しを図る。

又、地域交流推進室とキャリアサポートセンターの共催で、キャンパス周辺企業の関係者を講師に迎えた就職活動シンポジウムを行う。

### 協定先との連携強化

平成 22 年に地域連携に関する包括協定を締結した東京都羽村市との連携協議会に基づき、双方のニーズとシーズをマッチングさせる。特に「生涯教育」と「サービスラーニング」の面における連携活動をより強化する。

包括連携以外にも、八王子市との教育インターンシップや秋田県・秋ノ宮温泉郷とのまちづくり・観光連携協定などの各種連携協定の活動の拡充を図る。

### 学内リソースの統合による外部資金獲得の検討

平成 24 年度、地域交流推進室を設置した。地域交流課と合わせて、地域交流活動の位置づけを学内において明確化するため、本学の地域交流活動を高大連携部会との連携などと合わせて進める。

### 地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)

従来の地域連携・協力をより充実させて、「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業[注 11])」採択に取り組む。

## 3 研究体制の強化

### [医学研究科]

#### 研究活動の活性化

平成 24 年度には、基礎系及び臨床系領域間の連携強化、専門分野の枠を超えた教員、学生の資質向上並びに研究交流・共同研究の促進等を目的として「イブニングセミナー」を企画し、その第1回を開催した。今年度は本セミナーの定期的な開催により、その目的の達成に取り組む。

#### 研究環境整備と研究支援

医学研究科共同研究施設部門の機能強化を図るべく、利用者の便宜を図るための支援活動に取り組む。更に、各教室の保有する研究機器、研究技術の相互利用を促進するための活動を、昨年度に引き続き、研究科教務委員会を中心として行う。

#### 定員数適正化の検討

教育の質の一層の向上を図るため、入学者の質の確保、教育研究体制の充実などの観点から、入学定員の適正化に向けた検討を行う。

### [保健学研究科]

## 院生数の確保

研究体制の強化のためには、一定数以上の院生確保が重要であることから、広報活動として平成23年度から始まった研究科主催の講演会を継続する。

平成24年度の在籍者は34名であるが、平成25年度は更に20%増を見込み、約40名とする。

## 院生の国際学会での発表、英文学術誌投稿の奨励

院生の国際学会での発表、国際的学術誌への投稿への障壁を軽減し、動機づけするために、修士課程から英語による発表及び論文作成のスキルを習得するための特別演習の設置を検討する。

院生の在学中の国際学会での発表や英文学術誌への投稿を奨励するために、他大学で取り入れられている、渡航費の一部や投稿費用の援助が予算等の問題から実施可能かについて検討する。

## 外部資金獲得への挑戦

3年後の新キャンパスへの移転により、3研究科の教育・研究連携が容易になる。大学院GPの申請を目標に、移転後の他研究科との教育・研究連携の可能性について検討する。

## [国際協力研究科]

### 定員数見直しと専攻再編の検討

キャンパス移転に向け、将来的視野に立った研究科委員会委員の再構成、定員数見直し、専攻の改組・転換、新カリキュラムの具体的検討などを進める。

### 教員・大学院生の研究の質的向上

研究科所属教員による研究発表会実施の検討、海外大学との協定による教員・院生の研修受け入れ、共同研究などにより、教員及び大学院生の研究の質的向上を図るとともに、研究科所属教員による学部教員への研究支援の促進に努力する。又、若手・中堅層の専任教員に、競争的資金の獲得及び学位取得を積極的に勧める。

### 社会的認知度の向上と研究成果の還元

各専攻とも、学内外の講師による公開講演会を一層充実させて、社会的認知度の向上を図るとともに、企業等との連携による研究成果の社会還元を検討する。

## 4 優秀な学生確保

### 学生募集プロジェクトの計画と実践により、今年度を上回る受験生を確保する

一般入試及びセンター試験利用入試志願者の増加を図る。

(全体の受験者数の具体的な目標数値)

医学部 3,900 人、保健学部 7,000 人、総合政策学部 700 人、外国語学部 700 人  
過去の高校訪問校を検証し、実績及び地域を勘案して対象校の再選定を行う。

三多摩地域における重点校の訪問実施。

新キャンパス移転に向けて、通学圏内(1時間～1時間30分)となる東京都東部、千葉県及び茨城県等の進学校を訪問。

## 大学案内における学部紹介の内容を検証し、受験生の満足度を高める施策を実行する

学部の特徴、資格取得並びに学習環境を明確に表現し、掲載方法を改善する。

頁数を検証し、学部カリキュラム及び学生生活等の内容を充実させる。

## オープンキャンパス及び進学相談会参加者数の増加を目指す

受験生及び保護者のニーズを取り入れた企画とし、学部の特徴を理解しやすく案内する。

受験生に直接本学を PR できる機会である進学相談会(高校での進学説明会を含む)に参加し、総合大学の特徴及び学部の内容を積極的に伝える。

## 入学試験の円滑な運営

当該学部の教員並びに他部署の職員との打合せを綿密に行う。

事前の準備を、正確かつ確実に遂行する。

試験当日の役割分担を認識し、与えられた業務を正確かつ確実に行う。

## 受験生確保に向けての取り組み

大学案内を5月末までに完成させ、6月上旬からは希望者むけに配布を開始する。

進学相談会や高校相談会に出向き、受験生に直接本学の学部内容を伝える。

とくに文系学部については、高校訪問を6月上旬から開始し、7月中旬までに終了する。

受験雑誌や Web 等の広報媒体を利用し、年間を通して受験生にアピールする。

留学生の減少傾向を踏まえ、入試方法など入学志願者確保のための効果的手段を検討する。又、キャンパス移転後だけでなく、現状における大学院生の研究環境の向上にむけて、自習室の確保など、具体的な方策を考える。

## 受験生の満足度向上

オープンキャンパス日程についての告知は、4月上旬からの受験雑誌・Web 媒体に掲載するとともに、本学 HP でも随時紹介していく。

オープンキャンパスの内容を受験生及び保護者のニーズにあった企画とするため、4月から6月にかけての早い時期に十分に検討し、準備を進める。

年間を通して、東日本を中心とした進学相談会へ参加する。

# 5 キャリア支援の向上

## 学部との連携強化

各学部の就職委員会及びゼミ・研究室担当教員との連携を強めて、キャリア教育系授業、就職対策イベント、就活支援プログラムの内容を充実し、就職率の向上を図る。

## 新たな求人の開拓

企業との各種の情報交換会等を通じて企業情報の収集に努めるとともに、新卒応援ハローワーク八王子、民間職業紹介事業所等との連携を強化し、新たな求人の開拓に繋げる。

## 地域企業との産学連携強化

地域企業との産学連携を強めて、より充実した業界・企業研究の場を提供するとともにインターンシップ制度の拡充を図り、学生の社会人基礎力向上を図る。

### 就職対策の保護者への周知

保護者に対する就職関係の説明会、相談会を開催いたします。又、新たに保護者向けの就職ガイドブックを作成することで保護者の理解を促進し、学生・保護者・大学が一体となって学生の就職活動を支援する体制を構築する。

### 同窓会(卒業生)との連携による就職対策の実施

業界研究、面接練習、OB・OG訪問など各種就職関連イベントへの、同窓会(卒業生)の協力・支援依頼を強化する。又、卒業生採用企業との関係を一層強化する。

### 大学院修了者に対する就職支援方法の検討

大学院修了後の進路データを蓄積・分析し、一般受験による入学者並びに日本での就職を希望する留学生のために、流動的な現状に即したより効果的な支援のあり方をキャリアサポートセンターと協議するとともに、院生向け進路説明会の実施の是非を検討する。

## 6 情報基盤の整備

### 中期実行計画の策定

新キャンパスへの移転を視野に入れ、新キャンパスにおける教学系・事務系のネットワーク環境及び IT 機器の利用環境のランドデザインを設計する。そのために必要な情報収集・他大学の事例研究はもちろん、八王子キャンパスにおいて実験的にいくつかのプロジェクトを実行し、効果測定の結果を新キャンパスのランドデザインにフィードバックする。現行のシステムについては、諸システム及びネットワーク環境の抱えるリスク低減を中心に、各学部及び事務部署の必要に応じた情報インフラの保守を図る。

### 医学部 PC 教室の環境リプレイス

25 年度中に耐用年限を迎える医学部 PC 教室の端末及び管理サーバのリプレイスを実行する。シンクライアント方式も含め、医学部における IT 教育の要請に応じて、管理の効率化と教育目的の達成を両立させるべく、医学部事務室、該当科目担当教員、医学部情報センター委員と密接に打ち合わせながら環境構築を図る。

### 基幹ネットワーク(SINET)のバージョンアップ

SINET (Science Information Network) サイネットとは、国立情報学研究所が提供・運用を行う学術情報ネットワークのことで、アカデミックドメイン(ac.jp)が使用できるネットワークである。25 年度中に SINET の接続方式が変更されるため、それに対応した回線の確保を図る。又、今後、情報基盤は、図書館システムとの連携も含め、学認システムの導入も検討していく。(学認システムとは、大学、研究所、学術出版社等から構成された連合体の運用する相互認証システムのこと。相互に計算系システムや蔵書データベースなどの認証連携を実現することが可能となる。)

### 全学的な教学マネジメントの取り組み

教学系においては「科目ナンバリング」及び「GPA 計算」に対応するために、又、事務系においては大学基本情報の公表・省庁提出用のデータの一元化(将来的に IR 展開等)における集計機能をもったシステムの導入を図る。具体的には QLIKVIEW アプリケーションの導入と、その操作に習熟した職員の養成が必要となる。

#### **就職支援システム及び教職履修カルテシステムの導入**

教学系の様々な部門において、個々の学生の教育パフォーマンスに関する情報の収集と利用が試みられているが、キャンパス移転時に大幅な学生カルテシステムの導入を念頭に置きつつ、本年度は総合政策学部から強い要請のあったデータセンター型就職支援システムと、教職課程運営委員会から強い要請のあった教職履修カルテシステムを試験的に導入し、運用効果を測定したい。

#### **教職員のセキュリティ体制の構築と学生向けモバイルデバイスのセキュリティ対策検討**

教職員向け e-Learning の自宅からの接続を可能とするため、認証サーバを構築する。又、併せて教学系におけるモバイルデバイス利用(学外での利用も含む)の計画に鑑み、そのセキュリティの確保が可能となるようなソリューションを検討し、年度内には全学的にルール化を達成する。

## **7 キャンパス移転の計画整備推進**

#### **新キャンパスの土地の取得及び建築計画の推進**

八王子キャンパス移転用地(三鷹市下連雀の校地約1万坪)の取得は、平成25年4月に住宅金融支援機構からの所有権移転をもって完了する予定である。

その後、平成28年4月の開校を目指して、校舎の建築、移転準備を行っていく。今年度は基本設計を完成させ、平成26年春の着工に備え、建物の詳細設計詰め及び建築業者の選定を行う。

#### **学生生活将来計画の検討・準備**

平成28年4月移転を目指し、今年度は学生生活の将来計画を具体的に推進するためのワーキング部会を活性化させて本格化する。特に、通学バス、自転車対策などは、学内における検討だけでは具体的対策も進まないことから、前年度に発足した、三鷹市との連絡会の場を有効に活用し、行政機関への積極的な働きかけを図り取り組むこととする。

#### **新キャンパスへの移転・大学改革の周知**

バスの交通広告等、様々な媒体や手法を通して八王子キャンパスの三鷹への移転の周知を図るとともに、改革に向けての学内の取り組みの広報展開に努め、“生まれ変わる杏林大学”として知名度アップとブランド形成を図る。

#### **蔵書の移転準備**

新図書館に移す資料の選定、データと資料の整備を行い、配架計画を立てる。  
不要な資料の除籍を進める。蔵書移転の手順を検討する。

#### **新図書館の設備計画**

キャンパスの ICT 計画と連動したサービスを立案し、付随する作業の計画を立てる。IC タグの導入



を検討する。必要な機器・設備・備品を検討し、各フロアのレイアウト計画を立てる。

## 8 医療体制

### [医学部付属病院]

#### 新築・整備された各部署の機能向上、体制の再編

##### 病院管理・経営からみた新病棟建設後の評価

効率的な物品購入に努め、収支予測、将来分析をすすめる。  
部署別の問題を抽出し徹底した改善を図る。  
電子カルテシステム導入後の検証を実施し運用対策を組織的に行う。

##### 医療安全の推進

患者と共に医療安全を推進する体制を構築し、各種規定の周知を強化する。  
環境に即した院内教育システムの再構築。

##### 感染防止策の周知、徹底

院内感染防止において耐性菌巡視強化徹底、アウトブレイク[注 12]の早期発見、ICT との連携による対策の実施。地域との密接な連携をすすめ地域貢献に努める。

##### 地域医療連携の強化

地域医療連携室の機能発展、後方連携強化に努め新たな連携機関の開拓を実施する。急性期病院としての役割を解明にする。

##### 効率的な病床利用

入退院管理室：有効な病床利用の周知徹底に努める。

##### 職員教育の充実

医師の卒後教育において研修医のための総合研修センターニュースを創刊し、広く院外に情報を発信する。

##### 看護師の質の向上

看護部では適正な人材の確保、キャリアデベロップメントへの支援を行う。

##### 患者サービスの活動強化

患者サービス室と関連委員会の密接な連携を確立し有機的活動を行う。

##### 手術部の充実

手術部における安全の確保と質の向上、年間手術件数の増加を目指す。

##### 臨床試験の推進

臨床試験管理室では医師主導治験と先進医療実施体制の整備と推進を行う。

## がんセンターの整備

がんセンターとしての機能充実:院内がん登録の推進、東京都地域がん登録事業への参加体制を整える。東京都がん診療クリニカルパスの運用を進める。

## 病院機能評価受審

病院機能評価:第3世代 Ver1.0 の受審に向けて準備をすすめる。併せて当院が備えるべく必要な項目を整理する。

# 9 看護専門学校教育

## 教育の充実

「学生による授業評価」を継続し、評価結果を学生の学習改善、及び教員の授業改善、学習環境改善の資料として活用していく。「学内の研修会の開催」、「学外研修への参加」等により専任教員としての能力の向上を図る。又、「実習病院との更なる連携強化」を図り、教育内容の調整や方法の工夫をし、教育の充実を目指す。

# 10 学園運営体制の整備

## 「第3次中期計画」の推進

平成24年度をもって第2次中期計画実行期間が終了したことから、平成25年度以降も引き続き「第3次中期計画」を策定し大学改革に取り組む。第3次中期計画の策定及び推進体制は、平成25年度の早い時期に実行段階に移行すべく取り組んでいく。移転の準備期間と重なる平成25・26・27年度(3箇年)は「改革集中実行期」とし、第3次中期計画での改革成果をもって28年度からの新キャンパスでの飛躍に繋げる初年度とする。

## 財政基盤の健全化を図る

平成24年度に決定された八王子キャンパスの移転計画に伴い、今後多額の資金需要が数年間にわたり見込まれる。平成24年度に引き続き、予算執行管理を徹底し、予算の効率的執行・運用を行ない、安定した資金調達とバランスの取れた経営状態を確かなものにする。更に、財政基盤の健全化を図るため、中期的な事業計画の立案とそれに基づく施設設備整備計画・資金計画を的確に把握し、財政改善の中期目標計画を検討する。

## 広報活動・情報公開の一層の推進

大学の情報公開は、平成23年から基本的な教育情報の公開が義務づけられ、財務情報の他に教員・学生などに関する教育情報を学園ホームページに掲載し公開している。国公立大学の教育情報は、大学間比較が容易にできるようフォーマットを統一してウェブ上で公表する「(仮称)大学ポートレート」が進められており、私立大学においても日本私立学校振興・共済事業団が学校法人基礎調査の充実によりその一部項目をウェブ上で参照できるようにすることが検討されている。このように基本的な定められた情報の公開が進む中で、本学は、それらからは得られない、オープンキャンパス情報や大学の地域貢献情報、学園創立50周年に向けた

情報、病院の新病棟建設や医療機器の整備状況、診療の取り組み情報などといった、ステークホルダーが求めている情報をより積極的に公開するべくホームページの充実を図っていく。

### **大学ホームページの情報発信を強化し、アクセス増を図る**

大学ホームページの情報の量と質の充実を図るとともに更新頻度を高めて情報発信力を強化する。又、各サイトのアクセス解析を計画的に実施し、その効果の検証・改善を行い、アクセス数、サイトランキングの上昇を目指す。又、入学センターや各学部と連携してオープンキャンパスサイトや進学相談会等のページを早期に開設し、志願者増を図る。

### **「人事制度」の構築**

平成 25 年度は、学生、患者へのサービスをより良いものにする為に、職員が杏林学園で共に働く喜びを感じ、日々の教務の遂行が杏林学園の発展に貢献できていると実感し得る職場をめざし、1.「職員の働きやすい職場づくり」、2.「活力ある人事制度への見直し」を目標に掲げ取り組んでいく。

### **「自己点検・評価」の体制構築、点検実施**

大学基準協会による大学認証評価は、平成 27 年度までに受審することになるが、受審時には自己による点検・評価、改善・評価のサイクル実績をもって臨む必要がある。

平成 24 年度から自己点検を行い、外部評価委員からの評価を結果を踏まえ、平成 25 年度は指摘事項の改善及び新たな課題に対して取り組んでいく。

### **学園創立 50 周年記念事業準備**

平成 24 年度末の理事会・評議員会において創立 50 周年記念事業につき承認されたため、募金委員会を発足し、資金調達のための記念事業募金活動を 25 年 5 月 1 日から開始する。

## 【用語説明】

- (注1) 「CALL 教室」(Computer Assisted Language Learning) とは：コンピュータを利用して外国語の授業や自習を行うための教室マルチメディアを利用した外国語の授業に適した環境となっている。
- (注2) 「ルーブリック」(rubric) とは：成功の度合いを示す数値的な尺度 (scale) と、それぞれの尺度に見られる認識や行為の特徴を示した記述語 (descriptor) からなる評価指標のこと。
- (注3) 「クリニカルクラークシップ」(clinical clerkship) とは：医学生が医療チームの一員として診療に参加し、実践的な臨床能力を身に付ける実習。指導医の指導・監視の下で一定の範囲内での行為を実践する。
- (注4) 「学際的教育」(interdisciplinary) とは：理学や生命科学、社会科学、人文科学など他の複数の学問分野にまたがる教育。
- (注5) 「PBL 型教育」(Problem Based Learning) とは：問題解決型教育。社会経験が乏しく、適切な問題解決ができない部分の能力を高めるための教育・授業方法。
- (注6) 「フレッシュャーズ・キャンプ」とは：新入生全員が参加する泊まり込みの行事。
- (注7) 「ピア・サポート」(peer support) とは：一般に、「同じような立場の人によるサポート」という意味で使われる言葉で、「新入生が大学生活をよりスムーズに始められるように、上級生として新入生を支援すること」「何らかの理由で、大学生活に不自由を感じている学生を、友人・上級生として支援すること」の2つの活動を行うボランティア活動。
- (注8) 「ユニバーサルパスポート」(universal passport) とは：学生支援システム。シラバス検索・履修登録・時間割確認・休講情報・授業資料ダウンロード・求人情報 学内関係者以外の方も学部・科目名・教員名等からシラバスを検索することができる。
- (注9) 「CRV システム」(Catch the Real Voice of students system) とは：授業の IT 活用として、学生の携帯電話を利用したシステム。授業中にリアルタイムでアンケート、学習効果を見る小テスト、出席確認等を行う。リアルタイムで学生の授業理解度や貴重な声を捉え、学生にフィードバックし、授業の質の向上を図るもの。
- (注10) 「WBGT」(Wet Bulb Globe Temperature) とは：湿球黒球温度 (しっきゅうこっきゅうおんど)。酷暑の環境下での行動に伴うリスクの度合を判断するのに用いられる指標で「暑さ指数」と呼ばれる。
- (注11) 「大学 COC 事業」(Center of Community) とは：地 (知) の拠点整備事業。大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とする。
- (注12) 「アウトブレイク」(outbreak) とは：感染症のアウトブレイクとは、通常発生しているレベル以上に感染症が増加すること。